

令和7年度 津山市立清泉小学校 学校評価書(別紙)

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)			分析・改善方策	学校関係者評価
			状況	評価	達成状況	評価	総合評価		
主体的に学ぶ意欲の育成と確かな学力の向上 ・主体的対話的で深い学びの実現 ・学びのサイクルにより学習の定着 ・読解力の育成	・教材研究、校内研修を充実させ授業改善を図る ・ICTを活用した授業の推進 ・教科担任制による指導	・公開授業、研究授業を全員が行う。 ・各自1日1回以上授業で扱う。 ・教科担任制を通年で実施する。	・外部講師(宮本先生)を招聘し、研究授業、校内研修等を行った。 ・デジタル教科書、タブレット等を活用した授業を行った。ICTの活用についての研修を行った。 ・国語・算数・理科・図工・体育等で行った。	B	・外部講師(宮本先生)を招聘し、他校の教員も交えて研究協議を行うことができた。 ・すき間時間や補充学習の時間に活用できるICTの活用について研修を行った。 ・国語・算数・理科・図工・体育で行った。	B	A	・今年度においては、授業力パワーアップサポート事業を活用して、講師を招聘して、授業「聴きあい、学ぶ楽しさが実感できる授業づくり」について深く研究をすることができた。 ・教科担任制を実施することで、複数の教員で子どもたちの様子を見守ることができ、変化にすばやく気付くことができた。	学校全体でよく取り組んでいる。どの学年もきめ細かいところまでよく気を配り、丁寧な指導ができていた。ICTを活用した授業が充実している。計画実施したことを折に触れ反省し、改善しており、成果につながっている。
	・学びのサイクルの徹底 ・放課後学習の実施 ・「聞く、話す(同じ、違い、似ている)」の指導	・国語、算数テスト(学期2回)平均正答率80%以上 ・児童アンケート「友達の考えと自分の考えを比較しながら聞く」の肯定的回答が80%以上 ・「自分考えを表現することができた」の肯定的回答が70%以上	・放課後学習を計画的に行っている。全学年で実施している。 児童・アンケート聞く85%発表79%であった。全体的には意識付けはできている。今後、つながっていく発言になるよう指導していく。	B	・放課後学習において、学び合う活動を取り入れるなど、取り組み方に工夫を加えて取り組んだ。 ・漢字テスト91%算数テスト85%であった。 ・児童アンケートの結果は、聞く88%発表77%であった。	A		・全体の場面でもつながりを意識して話すことができる児童が増えた。一方、ねらいを達成するための教師の効果的な関わりについて、今後研究していく必要がある。	
	・ワークシート、MIMの活用 ・読書活動の充実	・読解力テスト(過去問活用学校作成)において平均正答率が75%以上	・読解力テスト(過去問活用学校作成)において平均正答率(7月)は71%であった。 ・読書タイム(月2)を実施している。	B	・読解力テスト(過去問活用学校作成)において平均正答率(12月)は82%であった。 ・読書タイム(月2)を実施している。	A		・週末課題や放課後学習、よむyomuワークシートの活用により、読解力の向上(特に長い文章を読む)につながっている。	
健やかな心と体の育成 ・体力向上 ・特別支援教育、食育の推進	・運動習慣定着の取組 ・運動意欲向上の取組 ・体育の授業力向上	・朝の運動を毎週木曜日に行う。 長座体前屈と反復横跳びの記録(学校平均)が昨年より伸びる。 ・児童アンケート「運動が好き」のA評価80%以上	・全校運動を昼休みに行った。2学期からは朝行う。楽しく運動をすることができている。 ・「運動やスポーツをするのが好き」の肯定的回答(A評価)85%(7月)であった。	B	・長座体前屈は、28名(71%)がアップをした。全体平均で2cm5mmアップ(女子0.1cm、男子4cm)した。 ・反復横跳びは、19名(48%)がアップした。全体平均で0.7回アップ(女子1.2回、男子0.2回)した。 ・児童アンケート(12月)「体育の授業が楽しい」の肯定的回答は88.1%であった。 ・児童アンケート(12月)「運動が好きでよく運動をしている」の肯定的回答(A評価)は80%、肯定的回答(A+B評価)は85%であった。	A	B	・「体育の授業が楽しい」肯定的回答の児童が増えている。授業の振り返りに取り組み、友達から褒められたことで苦手な種目に取り組もうとする児童が増えた。	運動習慣が定着し、体力の維持向上につながっている。個に応じた支援も適切に進めることができている。
	・ニーズに応じた教育支援の充実 ・食育の推進	・全校児童が適切な支援により、落ち着いて生活している。 ・全校児童が健康な食生活に関する理解と行動力を身に付けている。	・隔月の教育支援委員会、必要に応じてケース会を行っている。 ・残食調査の取り組みを行った。	B	・隔月の教育支援委員会、必要に応じてケース会を行っている。 ・SSWや特別支援教育ナビゲーターと連携し、児童の理解やより良い支援の在り方に努めている。 ・気づき表と個別ファイルの追記、確認を行った。 ・残食調査の取り組みを継続している。 ・学校栄養教諭による食についての指導を計画的に行った。	B		・個別ファイルや支援シートに記録を残し、成名家に統合した後も、支援を要する児童の理解と円滑な支援ができるように努める。	
人とつながる力の育成 ・自他を尊重する心の育成 ・豊かな人間関係の構築	・自己肯定感の醸成 ・いじめの未然防止、早期発見の取組	・児童アンケート「自分にはよいところがある」の肯定的回答80%以上 ・児童アンケート「やさしい言葉遣いをして、友達を大切にしている」の肯定的回答75%以上	・児童アンケート「自分にはよいところがある」の肯定的回答93%であった。 ・児童アンケート「やさしい言葉遣いをして、友達を大切にしている」の肯定的回答97%であった。 ・教育相談アンケートを実施、気になる児童については情報共有し、対応している。	B	・児童アンケート「自分には良いところがある」(12月)肯定的回答98%であった。 ・児童アンケート「学校が楽しい」(12月)肯定的回答90% ・児童アンケートと面談を実施、課題の把握と共通理解を進めた。 ・いじめを早期に認知し、対応して解消した。(1件)	B	B	・児童は自己肯定感を持ちながら、楽しく学習ができていると考えている。ただ、少人数での人間関係の固定化もあることが課題である。自分たちで、課題を解決する力を伸ばしていきたい。	ひとりひとりのよさを認め、よいメッセージを伝え、掲示する等、見える化することで自信につながり、さらに努力しようとして成果につながっている。このような取組を続けてもらいたい。
	・縦割り班活動、委員会活動、キャリア教育、道徳教育の充実 ・学年(低中高)担任制	・児童アンケート「人の役に立つことをしようとしている」の肯定的回答70%以上	・児童アンケート「人の役に立つことをしようとしている」の肯定的回答97%であった。 ・挨拶ややさしい行動など、メッセージカードを掲示したりお昼の放送で紹介したりした。 ・縦割り班を活用して掃除などの活動を行った。	B	・児童アンケート「人の役に立つことをしようとしている」(12月)肯定的回答92%(A評価62%) ・児童の良い行動やよいところを見つけ、にこにこメッセージとして紹介したり掲示したりする活動を引き続き行った。 ・掃除や全校道徳で縦割り班を活用した。全校道徳では、異学年での交流を通して様々な考えを出し合い、深めることができた。	A		・児童のよい行動を周りに伝えることで、子どもたちの自己肯定感が向上している。 ・縦割り班活動での掃除や全校道徳で、児童が主体的に活動する姿を見ることができた。今後も、委員会活動や当番活動でのさらなる充実を図ってきたい。	
地域から学びふさぐ心を大切に ・つやま郷土学の推進 ・地域との連携	・地域人材や教材を活用した活動の推進 ・地域貢献活動	・保護者アンケート「地域の人材や特色を生かした教育活動を行っている」の肯定的評価80%以上 ・学校評価アンケートCS項目肯定的回答80%以上	・学校運営協議会で学校運営について協議を行った。 ・8月に拡大学校運営協議会を実施し、地域ボランティアの方や全教職員で熟議をした。今後、地域に学ぶ会を実施する予定である。	B	・保護者アンケート「地域の人材や特色を生かした教育活動を行っている」(12月)肯定的回答100% ・地域に学ぶ会を予定通り実施できた。6年医王山歴史学習を行うことができた。地域の協力が保護者にも確実に伝わっている。	A	A	・地域に学ぶ会は来年度最終となる。複式学級への対応を含め、計画的に進めたい。 ・閉校に向けた取組を学校運営協議会やPTAと早めに相談し、計画的に進めたい。 ・成名家への統合に向けて清泉地区の地域学習をどう組み込んでいくか相談していきたい。	コミュニティー・スクール3年目。取組の様子を動画を作成して地域に発信する等学校への理解も深まっている。今後、統合へ向けて子どもたちを見守り、しっかりと協働したい。
	・コミュニティスクールの取組 ・学校公開、情報発信、東中ブロックとの連携 ・就学前教育との円滑な接続	・保護者アンケート「通信などで学習や生活の様子を知らせている」肯定的回答80%以上	・東中ブロックの連携事業への参加、津山市保幼小連携担当者会での連携、青少年を守る会・公民館活動との連携をしている。	B	・保護者アンケート「通信やHPなどで子どもの学習や生活の様子を知らせている」(12月)肯定的回答100% ・学校HPを毎日、発信していることは効果的である。学校便利だけでなく、短縮授業や提出物の確認もスクリーンを活用して、できるだけ周知することができた。	A		・各種便りを毎月、スクリーンで送信した。取組のお知らせや下校時刻の変更、提出物の周知もタイムリーに送信できた。 ・園訪問を行い、就学前教育との円滑な接続に努めた。	